平成 25 年度　横浜デジタルアーツ専門学校　学校関係者評価委員会報告書

０．実施状況

本校教務部が「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、自己評価表を作成し、それぞれの評価項目に従い、平成 25 年 4 月 1 日より平成 26 年 3 月 31 日までの学校運営について、点検、評価を行った。評価は、「1（不適切）～4（適切）」の 4 段階評価とし、併せて、可能な限り根拠や課題を明示するように努めた。

自己評価を実施後、専門分野における業界関係者、卒業生、接続がある学校関係者らから組織される学校関係者評価委員会を開催。自己評価報告に基づき、委員に評価・意見を求めた。指摘された改善点について、あるいはその後の学校運営の進捗により必要となった課題について、改めて教務部で検討を行い、対応を進めている。

１．開催日時

平成 26 年 7 月 22 日（火）15：00～16：30

２．学校関係者評価委員会委員

石曽根　剛　氏	神奈川新聞社　経済部長
菊池　匡文　氏（欠席）	横須賀商工会議所　専務理事
北川　貴和子　氏	株式会社髙陽印刷所　取締役（卒業生）
小林　和幸　氏（欠席）	神奈川県立神奈川総合産業高等学校　校長
斉藤　健二　氏	株式会社 2083　代表取締役（卒業生）
高橋　正　氏	公益財団法人神奈川産業振興センター　事務局長

３．出席教職員

今野　友行	教務部　部長	宮下　隆友己	教務課　教員
苅米　敏明	教務部　次長	杉本　雅子	教務課　教員
村田　恒	教務課　課長補佐	眞田　宏之	事業課　主任
日馬　司	教務課　教員	奥村　久	就職指導部　主任

４．自己評価報告と学校関係者評価・意見、及びその後の対応状況

平成 25 年 4 月 1 日より平成 26 年 3 月 31 日までの学校運営についての自己評価報告の要旨、委員の意見、ならびにその後の対応は以下のとおり。

（1）教育理念・目標（4 項目評価平均 4.00）

＜報告＞教育理念・目標は、「高度な技術力の習得・プレゼンテーション能力の育成・豊かな人間性の涵養」。「デジタル」技術の習得と活用を中心においた教育。学生一人ひとりにノート PC を貸与するシステムを導入し、自宅学習できる環境を提供している。

入学から卒業までの学習内容を見通せるようにグランドシラバス・教育課程表と、科目毎のシラバスを作成、学生に配布している。

非常勤講師との意識統一、教育レベル安定のために、教育課程編成委員会等において、周知徹底している。

＜評価・意見＞引き続き、努力してもらいたい。

＜対応＞平成 26 年度の教育課程編成委員会は、3 月 31 日、9 月 24 日開催。教職員と非常勤講師が情報共有、目的・目標共有が重要。授業後に報告し合える時間確保を努力している。

（２）**学校運営**（11 項目評価平均 3.81）

＜報告＞年度当初に事業計画・予算の策定、定期的に理事会や運営会議、朝礼を通じて、学校運営の進捗状況、課題等を全教職員が把握できるようにしている。年々、業務量は増大しており、業務の効率化については一層の効率化が課題である。

＜評価・意見＞引き続き、努力してもらいたい。

＜対応＞限られた予算のなかで業務の効率化を図るために、担当業務の見直し、既存の PC ソフトの活用によるシステム構築に着手。

（３）**教育活動**（16 項目評価平均 3.87）

(3)-1　カリキュラム（教育課程）

＜報告＞カリキュラムおよび授業時限数、学則は、所管の神奈川県に提出・承認。成績評価・単位認定は、シラバスに記載し、学生へ周知。

　カリキュラム作成にあたっては、「教育課程編成委員会」を設置（年 2 回開催）。卒業生就職先企業等に必要なスキル、求める人材像等のヒアリングを実施している。

　入学者となる高校生の勉学意識や基礎学力、就業意識等を入学前に把握し、課題設定や学習スピード等をカリキュラムに反映させるようにしている。

　流行・トピック的な学習も必要であり、選択授業「短期講座」を設定し、年度途中であっても柔軟に対応している。

＜評価・意見＞引き続き、努力してもらいたい。

＜対応＞企業へのヒアリング継続。高校生の現状をさらに詳しく知るために、オープンキャンパス等の来校者と教員の会話時間を増やすイベントスケジュールに改定し実施している。

(3)-2　教員の質確保・研修等

＜報告＞教員の質については、学歴や業務経験、人物など総合的な基準を設けた採用で確保し、また定期的に学生アンケート（授業評価）、自己申告票による自己点検・上長面談を実施して改善を図っている。

＜評価・意見＞授業アンケートで満足度の低い科目が１つあるのが気になる。

＜対応＞ご指摘の科目は、就職指導に関わる科目。学生の希望する就職先、職種が多様化しており、必要な情報ではあるが、直接、あるいは今すぐに関係しない情報があると感じている学生もいる。それで満足度が低くなっていると思われる。教員数に限りもあるが、希望先を分けて情報提供するなど工夫することも考えたい。

＜報告＞教員の指導力育成のための外部セミナー、研修会等への参加については、平成 25 年度より、教職員研修計画を定め、技術研修、業界・企業動向研修、企業見学研修等に区分することで目的を明確化。また本校を実施会場とすることで、実施・参加状況が大きく改善した。

＜評価・意見＞引き続き、努力してもらいたい。

＜対応＞平成 26 年度についても引き続き、計画に基づいて研修を実施していく。

(3)-3　インターンシップ・成果発表等

＜報告＞各学科で学生のインターンシップ参加を推奨しており、教職員がインターンシップ先の開拓に努めている。

　社会人として求められる重要な要素であるコミュニケーション能力の育成については、授業のなかにグループワークを取り入れて向上を図っている。次年度は、スポーツ大会、ゲーム大会等のイベントを学生の自主企画・運営で実施する予定。

　教育活動の公開については、前期・後期発表会、学外展を年間スケジュールに従い実施。学生就職先企業等、多くの方を招聘したい。また適宜ブログや印刷物で広く情報公開している。

＜評価・意見＞引き続き、努力してもらいたい。

＜対応＞インターンシップは引き続き実施、新規案件募集継続。学生自主企画は夏休みを利用して実施。学園祭集客プロジェクトも組織。

（4）**教育成果**（11 項目評価平均 3.72）

(4)-1　就職

＜報告＞専門セクションである就職指導部職員が、綿密なスケジュールのもと、学科担当者、担任と連携して学生の就職指導を行っている。また、求人票や過去の就職活動をデータベース化しており、学生が特設 Web サイトよりいつでも閲覧できるシステムを構築している。

平成 25 年度卒業生の就職希望者の内定率は前年度を上回る 94.3%。就職先企業、就職率等の情報は、印刷物、Web サイトで公開している。

最近の就職試験では、専門分野の作品制作力以外にも、コミュニケーション能力や一般常識（基礎学力）など多面的に人物を見られる傾向が強い。インターンシップや特別授業を実施するなど弾力的、受験企業別の対応を行っていく。

＜評価・意見＞専門分野以外の事務職や販売職といった就職先があるのは、心強いところ。一方で他にも習ったことを生かす職種があると思う。例えば、デザイナーではなく、デザインができる営業職、事務職などの紹介はできないか。

＜対応＞そういった求人も毎年、一定数ある。広い視点で多くの就職先、職種を考えられるように、1 年次より仕事についての授業を行っており、今後も続けていく。一方で、多くのことよりも、これにこだわって、つまりデザイナーにこだわってやっていきたいという意思をもつ学生も多く、いい面でもある。学校としては学生にできるだけ多くの情報を提供することと、保護者を含めた将来の職業観、職種等の希望を重視するという姿勢でいる。

(4)-2　退学

＜報告＞退学率は、例年 5.0%を目標。平成 25 年度の退学率は、前年度より大きく改善し 4.23%。メンタル面、学習面、経済面（学費）と退学理由は複雑、複合化しており、さらに対策の実施回数増やタイミングの適切化等を図っていく。

＜評価・意見＞引き続き、努力してもらいたい。

＜対応＞これまでの対策が成果となっている。デリケートな問題でもあり、引き続き慎重に対策していく。

（5）**学生支援**（16 項目評価平均 3.81）

＜報告＞メンタル面でサポートとしてカウンセラー2 名を採用。気軽に利用できるように申込方法やカウンセリングルームを別フロアに設定するなどの工夫もしている。

ほかにも、犯罪・薬物・消費トラブルなどの指導、震災・災害発生時の対応などの指導、あるいは経済的な支援が必要となった場合の指導を増やしている。奨学金利用のサポートの強化と独自の学費分割納入制度の導入により学費未納は改善してきている。

保護者への情報提供については、年間スケジュールに従い、成績、出欠状況を送付。就職活動の長期化に伴い、保護者の協力・理解が必要となることが多く、次年度は個別の活動状況の提供をさらに増やしていく。

＜評価・意見＞メンタル面のサポートについて教えていただきたい。

＜対応＞心の健康も重要視している。2 年前よりカウンセラー男性女性 2 名体制とし、カウンセラーを顔写真で紹介したり、オープンカウンセリングを取り入れたり、気軽に相談できるように工夫しており、効果は出ている。平成 26 年度も継続実施。

（6）**教育環境**（7 項目評価平均 3.85）

＜報告＞平成 23 年度に 2 号館 DTP 教室のパソコン一新。平成 24 年度には 3 号館が竣工し、ミュージック科の 2 号館からの移転と DTM 設備（楽曲制作ソフトやレコーディング機材）の一新を行い、最新設備となっている。毎年、入学者全員に貸与するノート PC（作品制作ソフト）と併せて、教育設備・環境の整備に力を入れている。

食堂（兼学生ホール）、体育館、屋上テニス・フットサルコートを設置、遠方からの入学者対応として学生寮、業者提携寮なども設置・契約。学生生活を支援している。

消耗品、老朽化設備の対応として平成 25 年度は、2 号館 3 フロアの空調設備更新、3 教室の床張替えを実施。

＜評価・意見＞引き続き、努力してもらいたい。

＜対応＞平成 27 年度、ネットワーク環境の設備更新を予定する。

（7）学生募集（11 項目評価平均 4.00）
＜報告＞年度当初に募集計画（募集人数、予算、広報媒体、イベント等）を定め、募集活動を行っている。
　入学希望者への情報提供として、「入学案内書」、「学生募集要項」などを印刷・無料配布実施。学校見学や説明会、体験入学を数多く企画実施することで、進路検討機会を提供。入学後のミスマッチ（勘違い・思い込みによる入学）防止に努めている。
　入学後に 1 週間程度の導入教育を実施していることや、就職活動時に一般常識試験を課されることもあるため、高校での学習をしっかり行い、やり残しなく入学するように指導している。
＜評価・意見＞少子化のなかで入学者募集が課題。オープンキャンパス等で入学希望者に学生たちの生き生きした姿を見せるのがよい。また、学校間の競争なので特長をどう打ち出していくのかが重要。
＜対応＞本校の最大の特長は、教員と学生の親近感、面倒見の良さ。オープンキャンパスには、在校生が手伝いとして参加し、こうした点を見せ伝えるようにしている。また、ゲーム系、デザイン系、音楽系志望者ごとに知りたい情報があり、きめ細かい対応をしている。
＜評価・意見＞マーケティングについて教えていただきたい。
＜対応＞本校を説明できる高校での進路相談会に数多く参加し、高校生と直接、会話すること。高校生のやりたいこと、高校生の描く将来像を把握したうえで、就職・デビューへのカリキュラムを説明、体験入学等で理解を深めてもらい入学へとつなげている。

（8）財務（4 項目評価平均 4.00）
＜報告＞入学者の確保に努め、入学者変動を抑えながら、収益事業を展開することで財政基盤の安定を図っている。
　また、人件費、広報費等の執行は、学園ガイドラインに従い、予算・収支計画を立案の上、執行しており、監査については、内部監査、監事監査、監査人監査等の期中、期末の監査を実施しており、体制が確立されている。
＜評価・意見＞ 引き続き、努力してもらいたい。
＜対応＞引き続き、各種施策を実施することで学校評価を高め、入学者確保に努める。

（9）法令等の遵守（6 項目評価平均 4.00）
＜報告＞設置や運営に関わる法令は遵守しており、毎年 5 月には所管の神奈川県の現況調査を受けている。
　平成 25 年度より「専修学校における学校評価ガイドライン」に従い、自己評価、学校関係者評価の体制を整備し、実施、およびその結果について、ホームページにて公開している。
＜評価・意見＞引き続き、努力してもらいたい。
＜対応＞引き続き、法令等を遵守する。

（10）社会貢献（4 項目評価平均 4.00）
＜報告＞主に夏休みを利用した小中高校生向けにキャリア教育を行っている。ニーズは年々大きくなっているので、引き続き講座を実施していく。
　地域の様々な活動が推進されており、学校休業日に施設の貸し出しを行っている。
　未来のクリエイターである中高生を対象に各種コンテスト（ソフトウエア・イラスト・かみしばい・音楽）を主催。なかには授業や部活動として取り組む高校もあり、評価されている。
＜評価・意見＞ 引き続き、努力してもらいたい。
＜対応＞平成 26 年度についても前年同様に講座、コンテストを開催する。

以　上